

2012 年度大学入試センター試験 解説〈日本史B〉

第 1 問

問 1 ③が正しい。

安土・桃山時代には風俗画を描くことが盛んになり、『洛中洛外図屏風』や『職人尽図屏風』のほか、**南蛮屏風**なども描かれた。南蛮屏風はこの頃に渡来した**南蛮人**（ポルトガル人・イスパニア人）の風俗を描いた屏風で、南蛮船が来航した際に荷揚げされる貿易品や南蛮人の行列などから、当時の南蛮人との交流の様子を知ることができる。

①の『**鳥毛立女屏風**』は盛唐文化の影響を受けた奈良時代の絵画、②の**濃絵**は安土・桃山時代の障壁画に用いられた彩色画、④の**錦絵**は**鈴木春信**が創始した多色刷の浮世絵版画であるから、いずれの記述も誤り。

問 2 ③が正しい。

b **人形浄瑠璃**は、浄瑠璃節という語り物と**三味線**という楽器に合わせて、人形を操って演じる日本独特の芸能である。元禄時代に全盛期を迎え、この頃に**竹本義太夫**が登場して義太夫節を創始し、**近松門左衛門**が竹本と結んで多くの脚本を書いた。**a**の**平曲**の伴奏に用いられたのは**琵琶**であるから、この記述は誤り。

c 明治期に洋楽が西洋からもたらされると、のちに東京音楽学校の初代校長に就任した行政官**伊沢修二**が音楽取調掛を設置し、**唱歌**や洋楽器による音楽教育を推進した。1880 年代前半には、日本最初の唱歌集が編集され、西洋の楽調に文語体の詩を合わせた唱歌が数多く作られた。**d**の**ラジオ放送**や**レコード**の普及で流行歌が生まれるのは大正時代のことであるから、この記述は誤り。

問 3 ⑤が正しい。

Ⅲ 日本画は明治初期の西洋偏重の風潮のなかで一時衰退したが、1878 年に来日したアメリカ人**フェノロサ**は、日本美術の啓蒙と復興を説き、1887 年には**岡倉天心**とともに**東京美術学校**を設立した。

I 1949 年に**法隆寺金堂壁画**が焼損すると、伝統的価値のある文化財を保護しようとする気運が高まり、翌 1950 年に**文化財保護法**が制定された。

Ⅱ **ユネスコ**は、貴重な世界の文化遺産および自然遺産を保護する目的で 1972 年に世界遺産条約を採択し、これまで数多くの世界遺産を登録してきた。広島**の原爆ドーム**は 1996 年に世界遺産に登録されている。

問 4 ②が正しい。

ア 天守閣は、近世城郭の中核をなす高層の楼閣で、戦国時代に屋上に建てられた望楼が堅固になったものとされる。愛知県の犬山城や兵庫県の姫路城などに現存する。

イ 中世の領主の居館の周囲には、堀や土塁のような防御施設で囲まれていたものも多く、そこから堀ノ内・城ノ内・土居などの地名が生まれた。

問 5 ④が正しい。

X 江戸幕府は、米の収入増加を図って新田開発を奨励し、大商人に資本を投じて開発を進めるよう求めた。新田開発は、享保の改革期にとくに盛んに行われ、武蔵野新田や見沼新田など多くの新田が開発された。

Y 江戸幕府は、陸上交通の幹線道路として五街道を整備すると、1里（約4km）ごとに一里塚を設置し、旅人の便宜をはかった。

問 6 ①が誤り。

百済の滅亡に衝撃を受けた朝廷は、朝鮮に大軍を派遣して百済を復興させようとしたが、663年、白村江の戦いで唐・新羅の連合軍にやぶれた。中大兄皇子は国内の防御体制の強化に着手し、大宰府の北方に水城や朝鮮式山城である大野城を築き、大野城の他にも対馬から大和にかけて各地に朝鮮式山城を設けた。したがって、奈良盆地に水城を築いたとする記述は誤り。

第2問

問 1 ②が正しい。

律令政府は、地方行政区画を国・郡・里の三段階に分け、それぞれに国司・郡司・里長を置いて統治させた。国司は、中央貴族から任命されて地方に下り、一定の任期で行政や司法を司った。郡司には主に伝統的な地方豪族である国造が任じられ、かれらは郡の役所である郡家（郡衙）などを拠点として徴税の実務などを担った。

国造はヤマト政権が設置した地方官で、大化改新の際に廃止され、その多くは優先的に律令制度下の郡司に任じられた。①の中央から国造を派遣したとする記述、③の国造が初期荘園を管理したとする記述はいずれも誤り。④の磐井は『日本書紀』によると筑紫の国造として強大な勢力を誇ったとされるから、磐井を出羽の郡司とする記述は誤り。

問2 8 ④が誤り。

木綿は、鎌倉時代に日宋貿易の主要な輸入品となり、室町時代前期には朝鮮から大量輸入され、庶民の衣服として普及するなど日本人の生活様式に大きな影響を与えた。戦国時代に三河地方で栽培がはじまると国産化が進展し、江戸時代には各地に特産地が生まれた。したがって、奈良時代に民衆が木綿の衣服を着るようになったとする記述は誤り。

問3 9 ①が正しい。

史料として掲載された「貧窮問答歌」は、『万葉集』にある山上憶良の歌で、農民の困窮した生活を貧者の問答形式で詠んだものである。奈良時代の国司は郡司や里長を通じて徴税を行っており、史料にある「むちを持った里長の呼ぶ声が寝室まで聞こえてくる」という一文からも、当時の里長の苛酷な税の取立ての様子を知ることができる。

問4 10 ②が正しい。

ア 弘仁・貞観文化の時代には、文芸によって国家の隆盛をめざそうとする文章経国思想が広まり、朝廷では漢文学の素養が重視された。こうした風潮のなかで、嵯峨天皇の命で『凌雲集』『文華秀麗集』、淳和天皇の命で『経国集』の3つの勅撰漢詩文集が編纂された。

イ 嵯峨天皇のもとでは法制の整備が進められ、律令制定後に実際の政治を運営するために出された格と式の編纂事業も行われた。格とは律令の条文を補足修正するために必要に応じて出された法令、式は律令と格の施行細則である。こうした格と式を分類整理する事業が嵯峨天皇の時に最初に行われ、820年には弘仁格式が編纂された。

問5 11 ③が正しい。

X・Y 10世紀に入って律令体制の崩壊が顕著になると、政府は人身を課税対象とする方式をやめて、新しい徴税方式のもとで国家財政を維持しようとした。具体的には、国司に地方政治を一任するかわりに中央政府に一定額の租税の納入を請け負わせるように方針を転換させたのである。地方政治を任された国司のなかには、課税率を自由に決定することができたこともあって、私腹を肥やす者もあった。地方政治における国司の果たす役割が大きくなると、これまで国司の監督下で実質的に地方政治を担ってきた郡司の役割は急速に衰え、消滅する郡家（郡衙）の数も増大した。表からは、律令制度が整備された7世紀後半以降に郡家（郡衙）が成立したことが読みとれるから、645年の乙巳の変以前に成立していたとするXの記述は誤り。

問6 12 ①が正しい。

X 遣唐使を通じて日本が大きな影響を受けてきた唐は、8世紀後半に発生した国内の内乱などで次第に国力が衰え、遣唐使が廃止された十数年後の907年に滅亡した。

Y 中国東北地方にあった渤海は、奈良時代初期の727年に来朝して以来日本と長く親交があったが、926年に遼（契丹）によって滅ぼされた。

第3問

問1 13 ③が正しい。

ア・イ 北条政子は、夫源頼朝の死後、父北条時政や弟北条義時とともに幕政に関与し、執権政治の確立に努めた。3代将軍源実朝が暗殺されて源氏の血統が途絶えると、京都から九条頼経を迎えて摂家将軍として擁立し、その後見として幕府政治を裁断して尼将軍とよばれるようになった。『吾妻鏡』には、北条政子が承久の乱の際に動揺する御家人たちに結束をよびかけ、積極的な攻撃策を採用して尼将軍の面目を存分に発揮した様子が描かれている。『吾妻鏡』は、1180年から1266年に至る鎌倉幕府の事跡を記した歴史書で、編年体の日記形式でまとめられている。

問2 14 ②が正しい。

X・Y 承久の乱後に新補地頭が設置されると、荘園領主と地頭との間で所領紛争が頻発し、御家人間でも同様の事態が生じた。執権北条泰時は、所領問題の解決のためにも公平な裁判の基準を確立する必要にせまられ、1232年に最初の武家法として御成敗式目を制定した。御成敗式目は、頼朝以来の先例や、道理とよばれる武家社会の慣習にもとづいて制定され、律令とはことなる武家独自の規定を条文化したものである。また、御成敗式目の適用範囲は幕府の勢力範囲に限定され、律令の系譜をひく公家法や、荘園領主の支配下で効力をもった本所法の存在を否定するものではなかった。しかし、幕府勢力の伸張とともに、御成敗式目の適用範囲は次第に広がりをもせることとなった。したがって、Yの御成敗式目が律令や公家法を否定すべきものとして制定されたとする記述は誤り。

問3 15 ①が正しい。

鎌倉・南北朝時代には、勢力を弱めた荘園領主から独立しようとする農民の動きが活発になり、とくに畿内では成長した地頭たちが荘園を侵して幕府や荘園領主に抵抗するようになった。こうしたグループは悪党とよばれ、社会秩序を乱す活動は幕府を大いに悩ませることとなった。

②の足輕が鉄砲隊に組織されたのは戦国時代であり、③の太原女などの女性行商人が京都で活躍するようになったのは室町時代であるので誤り。また、④の商品の中継ぎや運送を業とするのは問丸であるから誤り。

問 4 16 ④が正しい。

Ⅱ 明の朱元璋は、1369 年、南朝側で唯一勢力を保っていた九州の懷良親王に朝貢と倭寇の禁圧を求めた。

Ⅲ 足利義満は、1401 年、僧祖阿と博多商人肥富を使者として明に派遣し、通交を求めた。翌年、明は義満に国書で「日本国王源道義」とよびかけ、朝貢形式で貿易を行うことを要求した。義満はこれに応じて自らを「日本国王臣源」と名乗り、勘合を用いた貿易を 1404 年から開始することとなった。

I 4 代将軍足利義持は、1411 年に屈辱的な朝貢外交を嫌って日明貿易を中止したが、貿易の利を求めた 6 代将軍足利義教によって 1432 年に勘合貿易は再開された。

問 5 17 ③が正しい。

慈照寺銀閣は 8 代将軍足利義政が東山山荘に建てた観音殿で、上層部は禅宗様、下層部は書院造の様式がほどこされている。

問 6 18 ②が誤り。

鎌倉公方は 15 世紀半ば頃から下総の古河公方と伊豆の堀越公方とに分裂していたが、伊豆で勢力を強めた北条早雲は、堀越公方を滅ぼしたのちに小田原城を奪って相模に進出した。

北条氏は、早雲の子氏綱と孫氏康の頃に全盛期を迎えたが、豊臣秀吉の征討を受けて 1590 年に滅亡した。したがって、北条氏康が堀越公方を滅ぼしたとする記述は誤り。

第 4 問

問 1 19 ①が正しい。

ア 元禄期になると農業知識が飛躍的に進歩し、17 世紀後半には農学者宮崎安貞が中国の農書などを研究して、最初の体系的な農書である『農業全書』を著した。また、江戸時代後期の 19 世紀前半には、大蔵永常が『広益国産考』を刊行して商品経済の発展に対応した農家経営方法を説くなど、江戸時代を通じて多くの農書が出版された。

イ 非人は、江戸時代の封建社会のもとで士農工商の下に意図的に置かれた賤民身分で、四民との同居や結婚を禁じられ、居住地域も制限されるなど、社会から疎外された。

問2 20 ③が正しい。

X・Y 江戸時代には農業技術の改良が進み、農具では、田畑を深くおこすXの備中鍬や脱穀用のYの千歯扱が普及して農業生産の能率化をもたらした。また、踏車などの灌漑具や唐箕・千石筵などの調整具なども用いられ、肥料も、元禄時代前後から従来の自給肥料にくわえて、干鰯や油粕などの購入肥料（金肥）が畿内を中心に普及するようになった。

問3 21 ⑥が正しい。

Ⅲ 江戸時代前期の儒学者林羅山は、藤原惺窩に師事して朱子学を学び、その後初代徳川家康から4代の将軍に仕えて、外交文書や武家諸法度の草案を作るなど幕政の整備に尽力した。1630年には上野忍ヶ岡に私塾弘文館を開設し、これがのちの昌平坂学問所の起源となった。

Ⅱ 江戸時代中期の儒学者雨森芳洲は、木下順庵に学び、その推挙によって対馬藩主に仕えて文教にあたった。また、朝鮮語が堪能であったことから、朝鮮外交にも従事した。

I 幕末の水戸学者会沢安（正志斎）は、水戸藩主徳川斉昭の藩政改革を推進するとともに、『新論』を著して尊王攘夷運動に大きな影響を与えた。

問4 22 ④が正しい。

近世社会の身分秩序で被支配身分におかれたのは、農業を中心に漁業や林業を営んだ百姓のほか、手工業生産に従事した職人や商業を営んだ商人らであった。一方で、武士階級は身分秩序の頂点におかれ、苗字・帯刀など様々な特権を有していた。

①の入会地や用水の管理などは村の自治にゆだねられており、②の名主・組頭・百姓代からなる村役人に任じられたのは本百姓であるので誤り。③の賤民身分は百姓と同様に農業に従事することもあったので誤り。

問5 23 ①が正しい。

a・c 史料として引用された『世事見聞録』は、武士・農民・町人などの職業や風俗などに関する見聞を記した随筆で、武士の困窮や本百姓体制の崩壊の様相を知ることができる。下線部は農村の分解について記した箇所、富裕な地主と貧農層との農民の階層分化の急速な進行を嘆いていることが読みとれる。農村の分解が進んだ背景の1つとして、貨幣経済の農村への浸透があげられる。貢租の金納や肥料・日用品の購入費用などで貨幣の需要が増大すると、農民は商品作物の栽培などで対応したが、農民の生活困窮は激しさを増す一方であった。商業資本が農村に流入すると、農産物や農村加工品を売りさばく在郷商人が農村に生まれ、江戸時代後期にはかれらが株仲間

の独占に反対する国訴を指導することもあった。その一方で、農民が負債に追われて土地を手放すと、富裕な農民は土地を買い集めてこれを小作地とし、自らは農業に従事せずに小作料で生活する者もあらわれた。享保の改革の際には、本百姓体制を維持するために質流れ禁令が発せられ、質入れ地である質地（田畑）の売買が禁じられたが、各地で質地騒動が発生したため撤回するに至っている。

問 6 24 ③が正しい。

- X 百姓一揆としては、17 世紀後半に村役人が農民の要求をまとめて領主に直訴する代表越訴型一揆が起こり、一揆の代表者は下総の佐倉惣五郎のように義民として伝説化された。佐倉惣五郎が幕末の 14 代将軍徳川家茂に直訴したとする記述は誤り。
- Y 百姓一揆は、17 世紀末になると、農民が広範な団結力で領主に強訴する大規模な惣百姓一揆が主流となり、なかには藩全体の規模に及ぶ一揆も発生した。幕末になると、百姓一揆は政治的・経済的な側面で新しい革新的な「世直し」を求めるようになり、反封建的な性格を強めることとなった。

第5問

問 1 25 ②が正しい。

- X 明治政府は、1874 年、台湾に漂着した琉球漁民の殺害事件を理由に、西郷従道を指揮官として台湾出兵を行った。
- Y 1905 年、日本側全権小村寿太郎とロシア側全権ヴィッテとの間で、日露戦争の講和条約としてポーツマス条約が調印された。条約の内容は、ロシアは日本の韓国に対する指導権を認めること、旅順・大連の租借権や長春以南の鉄道の利権、北緯 50 度以南の樺太の領有権を譲るというものであったが、賠償金に関する規定は含まれていなかった。

問 2 26 ③が正しい。

1880 年代の朝鮮では、閔妃政権が日本から軍事顧問を招聘する^{しょうへい}などして内政改革を進めていたが、これと対立していた大院君の一派が蜂起して日本公使館を焼き打ちにした。この壬午軍乱（1882）が清軍によって鎮圧されると、これ以後、閔妃政権は清国寄りの姿勢を強めることとなった。これに対し、独立党の金玉均らは日本に接近し、1884 年にはじまった清仏戦争を契機に、閔妃政権に対してクーデタを起こした（甲申事変）。しかし、このクーデタも清軍の出動によって失敗に帰し、日本の朝鮮に対する影響力は著しく失墜することとなった。

①の**征韓論**は内治優先派の反対によって否決され、**西郷隆盛**らは参議を辞職したので誤り。②の**日朝修好条規**は片務的な領事裁判権や無関税特権などを日本に認めた不平等条約であるので誤り。④の**甲午農民戦争**を鎮圧するために朝鮮政府が派兵を依頼したのは清国であるから誤り。

問3 27 ④が誤り。

植民地となった朝鮮から様々な物資が日本に移送されるようになったが、グラフからは 1920 年代末から朝鮮米の移入高が低下し、価格も若干下降気味であることがわかる。価格が上昇に転じたとする記述は誤り。

問4 28 ③が正しい。

山県有朋内相は、ドイツ人法学者**モッセ**の助言をえて地方制度の確立に努め、1888 年にドイツの地方自治制を導入した**市制・町村制**を制定した。市会議員と町村会議員の選出では、地方の財産家・地主などの「地方の名望家」に有利な制限選挙が規定され、彼らが議員に選出される制度が作りあげられた。制定理由を記した史料にも、市町村の行政事務を担うのは国民の義務であり、無給にしてその職を執り、地方の名望家を多く任用する旨が述べられている。

第6問

問1 29 ③が正しい。

ア・イ **市川房枝**は、1920 年、**平塚らいてう・奥むめお**らとともに**新婦人協会**を結成し、女性の正しい義務と権利を遂行するために結束することを期した。1922 年には、女子の政治活動を禁じた**治安警察法**の第 5 条の一部を撤廃させ、女性の政治演説会参加を実現した。

問2 30 ①が正しい。

a **立憲民政党**の**浜口雄幸**内閣は、**幣原喜重郎**を再び外相に起用し、1930 年に**ロンドン海軍軍縮会議**に参加した。この会議では、イギリス・アメリカ・日本 3 国の間で**ロンドン海軍軍縮条約**が調印され、イギリス・アメリカ・日本の補助艦の保有率を大型巡洋艦で 10 : 10 : 6 とすること、主力艦の建造停止を 5 年間延長することなどが取り決められた。しかし、海軍軍令部は、大型巡洋艦における対米 7 割の確保を主張し、この主張を抑えて内閣が条約に調印したことは、統帥権の干犯だとして政府を激しく攻撃した。b の**ワシントン海軍軍縮条約**に調印したのは**立憲政友会**の**高橋是清**内閣だから誤り。

- c 1931 年 9 月、関東軍は奉天郊外の柳条湖で満鉄の線路を爆破し、これを中国軍の仕業であるとして全面的な軍事行動を起こした。立憲民政党の**第 2 次若槻礼次郎内閣**は、協調外交方針にもとづいて不拡大方針を唱えたが、関東軍はこれを見做して戦域を拡大し、満州全域を占領した。d の**国際連盟**を脱退した時の斎藤実内閣は海軍大将を首班とする挙国一致内閣だから誤り。

問 3 31 ①が正しい。

X 1920 年代にはプロレタリア文学運動が発展し、1921 年に創刊された『種蒔く人』や 1928 年創刊の『戦旗』などの機関誌に多くのプロレタリア文学作品が掲載された。プロレタリア文学の代表作としては、**小林多喜二の『蟹工船』**や**徳永直の『太陽のない街』**などが名高い。

Y **美濃部達吉の天皇機関説**は、統治権の主体は法人である国家にあり、天皇はその最高機関であって、憲法の規定に従って統治権を行使すべきだとして、明治憲法の枠組みのなかで天皇の統治権をなるべく狭く解釈した理論であった。しかし、1935 年に陸軍出身の貴族院議員がこれを反国体的であると批判すると、**岡田啓介内閣**は統治権の主体は天皇にあるとした**国体明徴声明**を発し、美濃部の著書を発禁処分とした。

問 4 32 ②が正しい。

日中戦争の長期化とともに物資や労働力不足が深刻となり、国民に対しても節約が奨励され、消費生活は切り詰められた。生活必需品も不足したため、1940 年に砂糖とマッチの**切符制**、翌年には米の**配給制**と衣料の切符制がしかれるなど、国民生活は圧迫された。

①の**地方改良運動**は日露戦争後の 1909 年に内務省が推進した地方の生産増強策であり、③の防穀令は 1889 年に朝鮮が発した米・大豆の対日輸出を禁止した命令であるので誤り。④のぜいたく品の消費が奨励されたとする記述は誤り。

問 5 33 ③が正しい。

b・c 太平洋戦争末期になると、戦局の悪化とともに労働者が大量に兵士として徴兵されたため、労働力不足は深刻となった。それに対応して、学生や生徒が軍需産業に動員（**勤労働員**）されたほか、女子も**女子挺身隊**として労働に従事させられた。また、朝鮮人や満州の中国人を日本本土に連行し、鉱山や土木工事現場などで労働を強いたほか、朝鮮や台湾には徴兵制を施行した。a のひめゆり隊は沖縄県立第一高等女学校・沖縄師範女子部の生徒を看護要員として動員したもの、d の女子挺身隊は男子の労働力不足を補うために未婚の女性を軍需工場に動員したものであるから、いずれの記述も誤り。

問 6 34 ④が正しい。

日本自由党総裁の地位にあった鳩山一郎は、1946 年、田中義一内閣の書記官長として東方会議に参画したことや文相として滝川事件を起こしたことなどを理由に、公職追放を受けた。鳩山の追放後、吉田茂が日本自由党総裁に就任し、まもなく第 1 次吉田茂内閣を組閣し、長期政権の基盤を築いた。鳩山は 1951 年に公職追放を解除されると自由党に復帰し、吉田茂との勢力争いを繰り返したのち、1954 年に日本民主党を結成した。

造船疑獄事件を契機に第 5 次吉田茂内閣が総辞職すると、鳩山は日本民主党内閣を組閣し、自主外交の展開と憲法改正を政策の柱に掲げた。1955 年に保守合同によって自由民主党が結成されると、第 3 次鳩山一郎内閣を組閣し、日ソ国交回復や国際連合加盟を実現させた。

①の保安条例は 1887 年に発せられた民権運動に対する弾圧法規であり、②の朝鮮戦争勃発にともなって設置されたのは警察予備隊で日本は朝鮮戦争に参戦していないから誤り。③の共産党幹部らは 1950 年以降に政府機関などからレッド = パージによって追放されたので、この記述も誤り。

問 7 35 ②が誤り。

日本社会党は、1945 年、戦前の無産政党を広く糾合して結成された。1947 年には、衆議院議員総選挙で第 1 党となり、民主党・国民協同党と連立して片山哲を首班とする社会党政権を誕生させた。しかし、サンフランシスコ講和条約と日米安全保障条約の賛否をめぐる対立し、講和賛成・安保反対の右派と講和・安保ともに反対の左派とに分裂した。1955 年に実施された衆議院議員総選挙で、右派・左派あわせて憲法改正阻止に必要な 3 分の 1 の議席を獲得すると、日本社会党は同年に再統一された。この動きに呼応して日本民主党と自由党が保守合同を果たし、以後、保革対立のもとで自由民主党の優位が続く 55 年体制が約 40 年間続くこととなった。

問 8 36 ④が正しい。

Ⅱ 1948 年、昭和電工による復興金融金庫からの融資をめぐる政界への贈収賄事件が明るみに出ると、民主党を首班に日本社会党・国民協同党と連立を組んでいた芦田均内閣は退陣に追いこまれた。

Ⅲ 1953 年から翌年にかけて、造船会社と政界との贈収賄が発覚し、自由党幹事長佐藤栄作も収賄の容疑で取り調べを受けたが、法相犬養健による検事総長に対する指揮権発動で逮捕を免れた。この造船疑獄事件を契機に自由党は分裂し、日本民主党を結成した鳩山一郎を中心に進められた内閣不信任案の通過が現実になると、吉田茂内閣は総辞職した。

Ⅰ 1976 年、アメリカのロッキード社の航空機の売り込みをめぐる収賄容疑によって、田中角栄元首相が逮捕されるロッキード事件が起こった。